

マレーシア人、といわれてどんな人々を想像しますか？

「日本人というのは、髪は黒く、目も黒く、肌の色は白くなく黒くなく黄色味がかっていて日本語を話す。主食は米。」などと特徴をはっきりとすることができます。でも、マレーシア人についてはとてもとても一口には表せません。大学で知り合った3人のマレーシア人を紹介します。



一番よく見る
タイプ

Aishah binti

Mohamad Zamli さん



大胆な服装の
若者が多い

王理玲さん



美人が多い

Kanagambigai

Manickavasagarさん

頭にスカーフをかぶり、丈の長いブラウスに長いスカート（一番多く見かける服装です）。イスラム教徒（マレーシアの国教）。髪の毛、目の色は黒。肌は、日本人より浅黒い。普段はマレー語で話す。英語も話す。

名前を見れば中国人。外見は、普通の日本人と何も変わらない。服装も日本人とほぼ同じ。話す言葉は、中国語。話す相手によって、英語やマレー語も話す。

大学のキャンパスで、インドの民族衣装（サリー）を優雅に着こなす。額には、赤ポチ。髪の毛、目の色は黒。肌は、かなり黒い。ヒンズー教徒。食べるものは、やっぱりカレーが多い。普段は、英語かマレー語を話す。家では、タミール語（インドの言語）を家族と話す。

AishahさんとKanagambigaiさんは名字がない！

Aishahさんがマレーシア人というのは納得。そして、王さんは中国人、Kanagambigaiさんはインド人。そう思いますよね。でも、3人ともマレーシア人。えっ？どーして??どーして???どーして????

この意味を理解するのにずいぶんかかりました。

正確に言うと、Aishahさんは Malaysian Malay・マレーシア国籍マレー人・マレー系マレーシア人（マレーシアの全人口の約6割）、王さんは Malaysian Chinese・マレーシア国籍中国人・中国系マレーシア人（約3割）、Kanagambigaiさんは Malaysian Indian・マレーシア国籍インド人・インド系マレーシア人（約1割）です。（適切な呼び方が見つかりませんでした。定説もないようです。）

マレーシアという国は、単一民族の日本と違って、この三大民族（人種）と更に少数民族とからなる多民族国家です。マレーシアに来ると、マレー文化はもちろん、中国文化やインド文化も、一度で楽しめてしまいます。マレーシアは、それぞれの社会が複合して存在する複合社会と言われ、タイの融合社会・フィリピンの混合社会と比較されます。

次のページから、それぞれの文化について、ちょこっとレポートしてみようと思います。

名字のない人たち

【加藤 真理】のように、日本人は名字と名前を持っています。そしてほとんどの日本人は、海外に出ると【Mari Kato】と名前と名字の順番を変えます。



Aishah binti
Mohamad Zamli さん

Aishahさんに「名字は？」と聞いたら、「無い。」の返事。「えっ?!んじゃあ、Aishahのあとのbinti Mohamad Zamliはなあに？」と聞くと、「お父さんの名前よ。」「お父さんは、binti Mohamad Zamliて名前なの?」「違う違う。お父さんの名前はMohamad Zamliです。」「え・・・分からない・・・???」

マレー系は 自分の名前 + binti (男性はbin) + 父親の名前 となり、名字がありません。bintiやbinは、アラビア語で“~の娘・息子”の意味だそうです。

結婚で、どちらかが名前を変えるということはないそうですが、最近の女性の中には、父親の名前に変えて夫の名前をつけ加える人もいます。

マレー系とよく似た名前の付け方がインド系です。やはり、名字が無くて父親の名前を後ろに付けます。Kanagambigai さんは、Manickavasagarさんの娘です。インド系は名前と父親の名前との間に“~の娘・息子”の意味で anak perempuan (省略形 a/p) や anak lelaki (a/l) をつけることもあります。これはマレー語で、英語の場合はdaughter of (d/o) や son of (s/o) をつけることとなります。“~の娘・息子”をつけるか、つけないかは、父親が決めるのだそうです。



Kanagambigai
Manickavasagar さん

中国系の名前はどうかというと、王理玲さんは王が名字で理玲が名前です。名字は一文字、名前は二文字で、名字 + 名前 の順番です。

中国系の人たちの中には、通称を持つ人も結構多くいます。その通称は、ほとんどが英語の名前です。王理玲さんは、中国名で呼ばれることはほとんどなく、Reginaと呼ばれています。

そして、中国系の名前でややこしいのは、読み方です。例えば、王理玲さんの名字[王]は、広東や客家出身の人だと【^{ハック}オン・Wong】、福建出身の人だと【オン・Ong】、潮州出身だと【ヘン・Heng】、北京出身だと【ワン・Wang】と、それぞれ違います。この王理玲さんの元々のルーツは広東で、【Wong Lee Ling】が正しい名前だそうです。

同じマレーシア人でありながら、こんなに名前の付け方が違います。そして、それでちゃんとうまくやっている国なんです。

ところで、どうして日本人は【Mari Kato】と名前と名字の順番を変えるのでしょうか? 確か4年生でローマ字を教えるとき順番をひっくり返して【Mari Kato】と書かせるとありますが、違ったかしら? その理由はなんでしょうか? 私は、【加藤 真理】なんだから【Kato Mari】でいいと思うのですが・・・

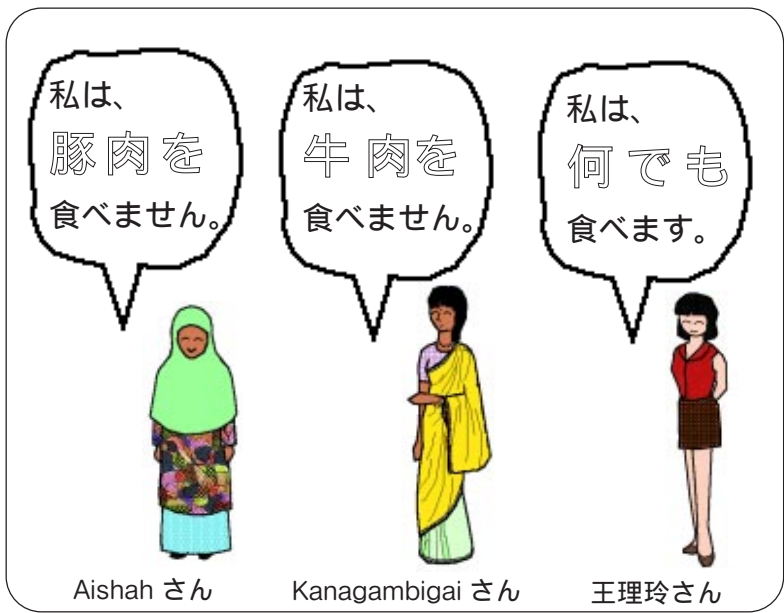
実際、日本人は日本でも【名前 + 名字】の順番だと思っている人がたくさんいます。その度に「日本では名字 + 名前の順番が正しいの。」と説明すると、「どうして逆にするの?」の質問。私も答えられなくて「どうしてかは知らない。きっと西洋の人たちと同じにしたんじゃない?」と言ったら「それが日本の習慣ね。」とかわされてしまいました。

どなたか、正しい答えを下さい!

次のページでは、それぞれの食生活についてレポートします。



王理玲さん



Aishah さん

Kanagambigai さん

王理玲さん

民族が違くと、食べ物もこんなに違います。

マレー人のほとんどは、イスラム教徒です。イスラム教徒は豚を口にしません。食べないと言うだけでなく、その言葉を口にする事さえ、またその姿を目にする事さえ忌み嫌います。それが漫画のキャラクターであってもです。すごく厳しい人は、豚肉を調理した事のある鍋、包丁すら嫌います。豚肉を扱っているレストランには行かない人もいます。

牛肉や鳥肉などの獣の肉は、祈りを済ませてある肉でないといけ

ないのだそうです。魚類にはタブーはないとのこと。また、お酒のたぐいもタブーで、厳しい人は風味付けに洋酒が入っているケーキ類も食べないそうです。

料理の味付けは、辛いものが多く、またココナッツミルクをつかった料理が多いこともマレー系の料理の特徴です。マレー系のカレーにはココナッツミルクがたっぷり入っています。デザートは、すごく甘いものがほとんどです。

インド人は、ヒンズー教徒が多く、牛を食べません。でもこれは、イスラム教での豚の場合と違って、ヒンズー教では牛は神聖な生き物（神様らしい）なので食べないのだそうです。一番よく食べる肉と言えば、鳥か山羊・羊、あるいは魚のようです。

インド料理にお店に行くと感じるのは、生の野菜の料理が全くといってないこと。特に、葉っぱものの野菜は生では食べないようです。どれも、火が通っています。そして、辛くても辛くなくても、どの料理にもスパイスがたっぷり。スパイスの種類によっては、おなかが緩くなる作用のものもあり、下痢ピッピーになってしまう日本人も結構多いようです。マレー系のようにココナッツミルクを使うものはありません。デザートは、恐ろしいほど甘い種類のお菓子が多くあります。

そして、何でも食べて、どこでも生活できそうな中国人。“車（一昔前は、“机”だったそうな）以外の四つ足なら何でも食べる”とさえ言われています。中国人街の朝市場にいくと、食材の種類の豊富さ、その量に圧倒されます。家の近所ではないので、まだ行ったことはないのですが、ヘビやトカゲ、犬までもが食材として売られている市場もあるとか・・・

鳥肉と言っても、すでに鳥肉になったものから、かごの中でコッココッコッコと鳴いているものまであります。中国人が食べないのは、羽・爪・くちばし・骨ぐらいなもんです。

豚肉も同じで、食べない部分はほとんどないくらい。売り物として足や耳がごろごろと並んでいます。

朝市場の様子は、後でまた、別の紙面でもう少し詳しく紹介しますね。

では、*Jumpa lagi!*

この部分は、爪を落として油で揚げて、甘辛く煮て食べるとおいしいのだそう

